

(第3種郵便物認可)

新 戸 申

千種高ライフル射撃部 猶原宏海さん 藤原唯羽さん

全国大会で力出し切った

ベスト8以上には進めず

千種高校(六栗市千種町千草)ライフル射撃部の猶原宏海さん(17)と藤原唯羽さん(18)の3年生2人が28日、全国高校ライフル射撃競技選手権大会(広島県安芸太田町)のチームライフル競技・女子個人戦に出場した。ともにベスト8以上のファイナルには進めなかったが、「最後まで撃ちきることができた」「悔いのない大会」と話す。(村上寛宏)

チームライフルは光線が出る銃で、10分先にある直径約4・5センチの的を狙う。0・10・9点まで0・1点ずつ設定され、45分間で60発を撃って合計得点を競う。全国大会で発射可能数は40発になる。5月の県総体で猶原さんが2位、藤原さんが3位に入り、全国への出場権を得た。猶原さんのベストスコアは625・6点で、全国上位を狙える高い技術力と精神力を持つ。県総体では調子が上がらず、604・1点の不本意な結果に悔しさをにじませた。重奪を誓って臨んだ今回は昨年の全国大会の自己記録を更新する407・0点を出した。

藤原さんは、10分以内にはほぼ撃ち終える「早撃ち」が特徴。「発目が良ければ、そのままの姿勢を保ちたい」といい、中学時代に柔道部で鍛えた体幹で約5秒の銃を支える。射撃時の安定した姿勢を心がけ、成績を上げてきた。全国では397・2点を記録した。

猶原さんは「目標の410点

「最後まで撃ちきり、悔いなし」

以上は出なかったが、8月の国体選考会に向けて競技をより楽しみたい」と笑顔。藤原さんは「練習の成果をはっきり出すことができた」と力を込めた。



チームライフル競技の全国大会に出場した猶原宏海さん(左)と藤原唯羽さん＝千種高校